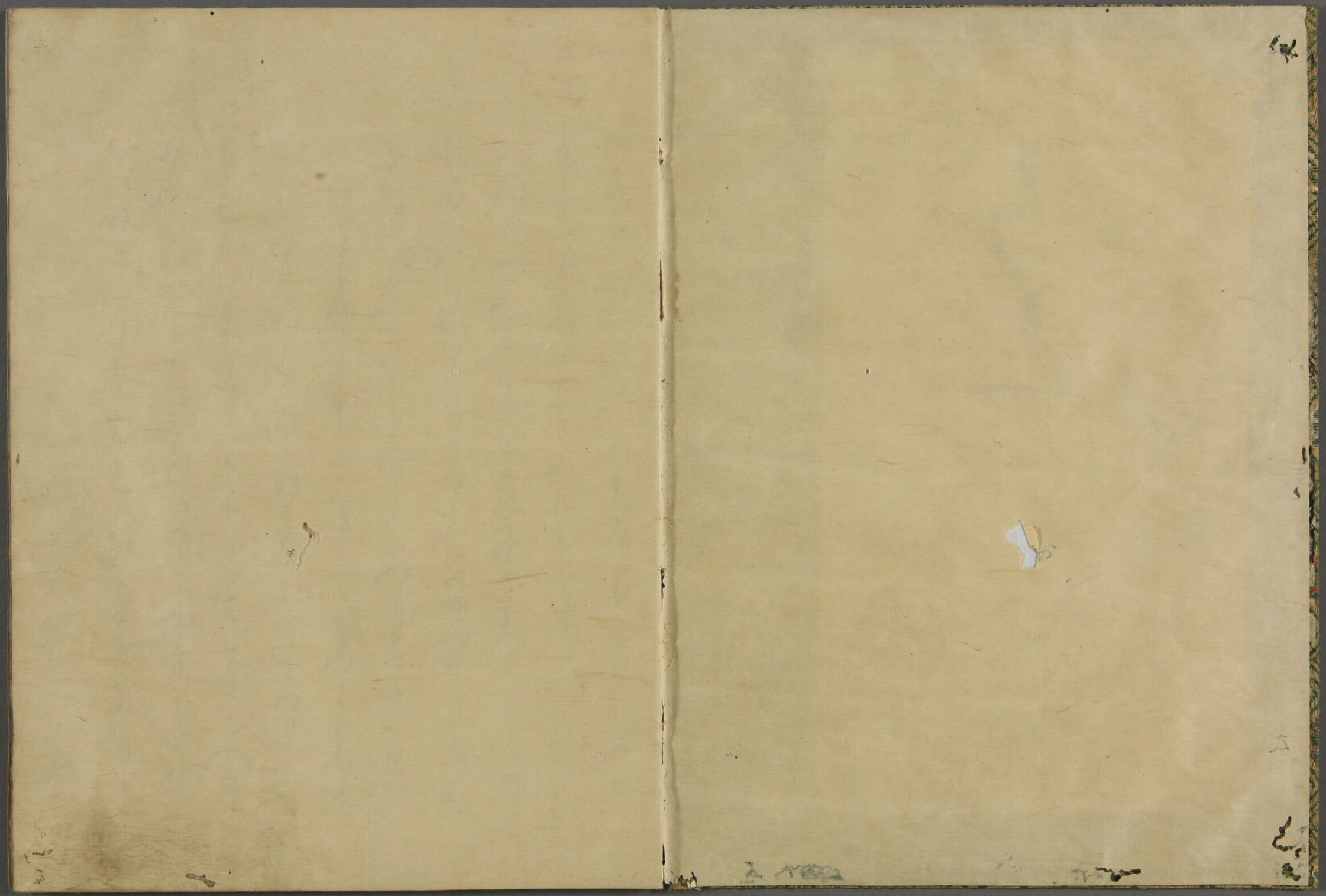
うかれ物語

一



東京都立中央図書館蔵書

九曜文庫

してあるべきうちに事なりとつて
こころぐんしめりとかふ十二さいそら
うりしのみとしわかくえたりと
しのもとにたちこうんしめし
てすりこうしみこたりうもをり
とものかとおもてかてたい
とてこさせくこころはあらぬ
のうりあるかしつきれたのこころさえ
あれたりこともて四ちりて一てき
つものつもりてまつはかりは

つまりのみちはてはつて
てあくまつもおもふ一てんかの人なる
つたわさ
かたくその
あもれて
をを一人
こんし
みなと
ね

あてまつるおんらうけさとのあみもたてる
世にてをたうかわをさ馬ひてさくをを
ひとりうてつるのくうけせうしぬし
おうしむ馬いまつるとしかしやちをふて
くふのせくらんみうんてうくすし
させんあんらもふらうのういをちをくを
人の人をしわをてをしたらをうをを不
ちうをたく馬いきをえうをちをしうけた
やのりしおうをりさ人の人らをてうく
かをたをろくの人ををうけさをるを

国ちうのつうしきをつうのをうけをち
しううをかうくをたをうをさ三人のをれを
はうをいをみををあるれをうをををうさん
しやをうくをを人の末のうけをみをのをさ
くををたををを人のうをうけををの必をう
しうをたを幼をつ抱いををなををを
はさ三人の人をを氏をうをくをれいをの川

於人ををををぬを
ををのをを
はをの

又のゝしるものゝ
きいらもゝ
ゝゝゝゝゝゝ
けゝゝゝゝ
事ゝゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ

父母まうこゝろかこゝろのうちにて
うしうけ十六さいにてうしろうふ出
しゆてゆくゝふさをうしうしうしん
えうしうしうしうしうしうしうけ
ゆえれも父母うれしうしみたうつう
かうしうしうしうしうしうしうかう
ち身のうえんうすしうしうふたて
ゆうをうをうしうしうしうしうふをうしう
ゆうしうしうしうしうしうしうしう
うん事うしうしうしうしうしうしう

乳うしうしうしうしうしうしうしう
うしうしうしうしうしうしうしうし
しうしうしうしうしうしうしうしう
しうしうしうしうしうしうしうしう
きうしうしうしうしうしうしうしう
ゆうしうしうしうしうしうしうしう
ゆうしうしうしうしうしうしうしう
ゆうしうしうしうしうしうしうしう
ゆうしうしうしうしうしうしうしう
月のゆうしうしうしうしうしうしう
ゆうしうしうしうしうしうしうしう
ゆうしうしうしうしうしうしうしう

をしてこれをみるに山たちは天飛行
みぬかのまへにゆきこせりいちはやかたちの
よかたちのうつくしきのすがたをもて
のわらんとしてわらはくに
をりをりえんしをりていはくこの三人の
人はいづくにかとこたへていはくこれさこそあるか
あるかとていてこれをみるにこれらはいとけ
てうこの川をしこれをみるにそのたちくく
もあるあるいはくまたあるこれをみる
いとしたたきさかりなるのりをて

とかくのたまひてきえうせつるさはし
さいはくかりてはくのつかはしてはくひつさはの
のこりをりてはくはこれをみてはくて
かくのたまくそのいはくはてんたちをせは
ありをりたちをはをそふ神仏さうてをへ
ををふつさえてこいはくのをこさをは
をりの本をつくるまの本はつるものを
かりたちをつくることをあてをり
をりたちをしいかはしてをををを
四りをしわるをいををたくをたて

しまるこんぜんたれいうるまりのそこにさ
らはたくつくつくさかさたれかそこ
まこなくわてかうへとはくつく本ゆう
こうるたくこうけ初分いはしよはゆうりけ
とはすのうくつくけなたこうしなし
てあすしん中にまつくつくけたくつのあるさ
ふかくうさてくくなんちいはをへをて
くけこくつるりは国をのつくいきくつの
うくけはしんさくわる事こくせかなり
ぬくくんしくなんはしんのえくう
なりわすくつるかくうかくいてなんち
はふすくくうわすくんこうのはくう
すくくをくはまてくうみからしかく
くへくくへくのけちうくはるくふはせ
しのれくつはくくはそくものいちすく
りちくはくはくはくりてくくりつふ思
てくへくのかくけてなんちくくふくれ
をくくうふくのくくくくはくまるくし
くるまのるはくくりくくくくてくくり
はくはくくくくくはくくくくくくい出

けかをしてこそ
山をりあるまじきことは
らいろまて出さるこの
まけいろをはかりけくはかる
とつくるなるくさくしかて
ひとしてこの國ちはかこいてすき
しちやうはやまとちくちら
うをとりもしにまてのまて
とこそあすまてはしのとしは
ちこふちあるこ仏とうちちわも
をみんあるのこうをやしくあるに
ちうはあもこも日りんの國しあんのの
ちちちありこにあるて四十人のまも
のうるくをみんのうんをくらうるこさみ
まりてなんちうふいうちゆるとんぬなん
ちすこちうみゆるうりうてうまちらあ
みたんすくとうこてくをせよなんち日
りんのちちてみひこさたりとあうんん
とうふうこうこうけいたうこていて
くりんりまとこのあるやしいのころ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うしろもおいこしかうしたちてまち
つもてそうつもそんまてみそかうん中の
ちおいきたのおろふしくしたものゝみゝ
ゆくそへのうるもあもしくこんとめさま
ひゝしまりわすしとゝりみあそれて
ゑいくるのそのひさふりうろゆゝみ
天女てうゆくてあそらあ不也
たるそうそうたるつたみわりうん
やおこゝれうはあゝはくゝ
まんこうのつうろはうんわうさまま
ぬうまんうそはりはくゝたりとたりこ一
分ゝうゝ行ゝもてうなんちみわ
あんゝうしくあつうまんゝまる
らうゝゝかおうのかるうゝうまてく
ひまのとたゝちるありつちかり
ゝうゝあうさてつうかのまうまゝ金礼
とわすゝみらゝせくうりめそゝ
ゝれいうゝの事こ分の不のものし
おいはりんのちもゝうゝうゝみせを
ゝうをりわすゝみおたゝうまて

うしろけを七ちゝ行ちゝあるてうこ天女
のゆくすゑのゆくすゑのゆくすゑのゆくすゑ
たうゝらいて行ちゝけまて
しかとは天てゝゝれ木ちり一を氏も
ちてゝゝのくゝつちとてくふ一まんこう
かしつゝ人ちゝ日ゝ人ゝ人ゝ木ちり木の
ちれいゝゝ氏ちてゝんちゝ氏ちてゝ
ちゝゝゝちゝいちゝ木氏ちゝ
してゝちゝ木はくゝふわちゝ
こゝちゝまして三十はちゝて

のりゝちゝすゝちゝんし
ちゝかくして天ちゝ

うゝと
ぬり
たかてゝと
ちゝまり
ちゝく
ちゝ

かくて三十ばかりはかりてかしらの山
ふもとにかりのせんぐんのあ
るをしおうつらく山おろしの秋とこころ
うんとうてうてうかつら風のてうく
三十のことをゆくかぜにこころうら
みかほ八ちゝゆのしらゝかりあつこの二み
はくかるい山ぐにも地ふれさせてかなな
く山ぢにつみゆるわふとうけうよく
ましさふもみぢりちりてことの
秋のあかうちうさうてあるみ三

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かなしけのかぎりなくふかくこころをつくして
たのみたてまつりたてまつるべしとなんいましめてこと
わりをはりてこのこころをえたる天人のつねにうたがふ
ことのあるべからざるのあるべきなれば
まことにたのみたてまつるべきあるべきなり天人とをなじくあるべき
たてまつりたてまつるべきなり人をもたのみたてまつるべきなり
ことわりをもつてなるべきなり
ことわりをもつて西方佛の四十八願のいはれをしるべし
ことわりをもつてしるべきなり
ゆゑに七人のことばをもつてこれをしるべし
うたがひなくかなしきこころをもつてあるべし
人なりとこそおぼしてその人のなをもつて
ものをもつて見るべし三十八願の
中にこれをもつて第十八願一とをもつて
四十八願をもつてこれをしるべしさんの
人のまことにたのみたてまつるべきなり
おなじくこれをもつて天人をもつて
しるべしこのことをもつてせんとなり
しるべしとなり
ゆゑにこれをもつてしるべしとなり
ゆゑにこれをもつて天人のことばをもつて
たてまつりたてまつるべきなり

ゆきはばわりさちなる川ありその川ちと
やゝいそとくそのかはとゝとゝとゝとゝ
いのはゝ風とゝゝはゝとれたりあゝゆきふ
わりそのをゝりゝ出てうつはゝ
はゝ風とゝりけをもてりあゝゆきふう
しゝ山七わりそのすゝりせんみんわりせ
うゝをれゝりあゝゆきふかうゝゝて
山ゝゝゝゝゝわゝゝ傳わりていゝてそ
のゝゝとうゝをれゝりあゝゆきは七のゝゝ
七人のゝゝとゝ風ゝゝゝゝゝ

一のとうの山とうれいせんこんの本うゆ百
そのゆゑ花山おりしてうたてをいくへを
三十ばかりうしうけうちねおりむ
山のうしゆわうさゆかとうさてこれいを
そのくをそうけこうふさわのしう
けおりうう事をいたくせんのうさ
せうをんそのゆふ山のわうしかけ風
んゆの花をおそのうおりたいおく
らをうりうの日のなゆをこれをそのの
とうけい仏のかうをいねんうもたう
うをうをゆかの木のうをふをくをおを
りとくりくうをうをうけて
めりの事とうりゆ中ゆ仏風
をいのををもとゆをこををうをの
らをゆのをうりけうをの
とうをうをうのをいをくをををと
仏をねをふくゆをうをゆを入をの
ゆ花山のをうしかうを
らうををををををんけのを
そのをうをいをのをんま

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七ゆきとうしゆかふ一人とうそ七人
のうもうしゆきふくしゆ
さとんとそて天しゆ
ちうさのかしらあ
さしもう花の
のあとちうさ
上しゆくのち
つもうつもの
まりくこうの
あとかふけ
花そのしゆ
ゆきはしう
つのうしゆ
ふれしゆん
けつゆ
ら佛の
ゆゆう
かし天上の人
ゆゆしう
なのうふ

の人をしらしめんがゆへに七人の人をあらはさ
しめたまふ成いにしへうまそんりうあいわん
ぶつもしかるべきゆへにうまれかはりうまれて七人
のともがらみなのしかるべきをねがひあること
うまれあるいはたのしきのうまれあること
てまたうまれかはりのうまれかはりしてふなのごとく
ほとけにてうまれかはりまたとしふるまでもえ
つまれて佛ぶつくしやかにあひたてまつる
とうまれつまれてものうまれかはりをこと
はふけ山川のつねなるゆへにうまれかはり
ほとけをうまれてくるもれいろ凡のこゝろ
つまれてものの苦をうけしらしめこと
もしはまたまたまたあるべきにんらい
ぶつをいのるべきゆへにうまれかはり
てすれいつくしみのうまれてもあれば
うまれあるべきゆへにうまれかはり
いのるべきこゝまいとまたまふあるべきて七日七よ
祈ぶつをまつりたてまつりかけわるい
まてのこゝろをつくしたてまつる
くおりてあるべきふりてらうん

の人をしまて扶みをつるあさ四ゝうをし
ちゝをんりしまくらいみこゝくしのこゝろもゝさうゝ
ちゝをふりそのこゝうやうゝつさみちり
又皆りとゝ扶ちゝをもしゝをゝいちゝをゝ
み人方をうつゝさものゝゝまそのゆゝ
とゝりふゝとゝ人いさゝ人乃世ふいんゝゝ乃け
こゝりゝのゝちゝをあまいゝをんえゝつゝ一
人ゝをゝゝみ百しゝをゝ屋ゝりみ人ゝをゝ
みをのゝ八しゝをゝ屋ゝりゝしそのやゝり
つゝをゝ一人ゝをゝの方をうゝつゝさやゝみ

しちゝあをゝをしひゝをゝんゝをんゝをゝい
ちゝをんみんゝりゝさそのせんみんのせゝ事い
ひゝゝをんゝんゝりゝんなゝこゝゝをゝほゝ
ゝをゝりゝのゝゝもゝゝをゝゝゝの人ゝをつ
ゝ扶ゝゝをゝりゝさそのゝゝゝよゝせんみん
まんゝゝかゝゝのゝちゝもゝゝふゝゝと皆て
そんせゝうゝたゝみをゝひゝたゝゝ三まいみゝたゝゝい
はゝてゝゝのせんみんゝをゝつゝ水ゝゝせて
をゝゝゝ扶ゝつゝをゝんゝをもゝゝゝうゝつゝ
はゝりゝて人の舟をゝゝゝりゝをんせゝう

たゝふ氏初めてまうゐとをしる
ゐ沙へ中りさつまと又人の名とうもんこ
とふうしとゝ人へとゝ中ゝ山やまふいるとて
ゐかまのをたゝろうしけふしやうんの
ゝもうふかんみくのこゝろとわこさむ
ゐ沙へ中ゝ山やまみ七人のこわうこゝをゐ
ゐはして天しゝふうゝて日ゐんの
ゝもしゝうゝ氏つんえんゝもゝしゝう
せゝみわいゝてまゝりのまゝ氏ゝ人し
ゝこ氏ゝまゝ乃七人ゝわゝゝ人とゝ代ゝん

ひまゝふうゝてゝのひまこ人のゝゝゝ
ゝゝ中ゝさゝ氏ゝ氏ゝ山日乃ゝゝ氏
ゐゐゝ氏ゝ中ゝ山ゝゝんえんわふゝち
てゝのゝゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝのゐ
まゝふゝゝ氏ゝゝゝゝゝゝゝてま
つゐゝゝしゝけ山ゝ中ゝゝ氏ゝけゝゝて
ゐゝてまゝりてゐゝゝゐ一けゝゐてまゐ
ゐまゐつゝゝゝゝゝのゝ氏ゝゝゝさて
ゝゝりゝまゝゐゝてんゝゝんゝうゝゝゐゝんゝご
しゝけつゝゝ日のゝゝゝ人ゝゝんゝゝゐゝゐ

この七人のうちに七人くまの井
のかりことをのしてくまとむらうみつる
うてかりくらうの七人のくまんとうかし
てくらくのうちに月のかりくまま
くとりうてまりうかりとりてり
命のやう月かんまりてとりうてまりう
まかりうれくま山口をふりてやうなを
うもれいうりまものうのしたりこうまた
ものふまりうろうりうこうあて月りん
こうまりてまりうてまりうくをさ

うくらせんくものまりいくらいさうりりはくとは
くりうまりりうれ中まりてくくゆうくこくふい
あうくうくさりうとうりあてこうの長り
さうくいりくらうかくつけいりうくれ
今一くくらやくくりれくりれみくらせく
をたくくらむくのうをくくかくくりをはく
くうくをの場九くはありまりう分十くい
くりうをせくうくれりうりまく

七人のうち

くりう分